
笑える話

ムネソラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
笑える話

【Nコード】
N9868P

【作者名】
ムネソラ

【あらすじ】
つい笑ってしまうような下らない話です

（前書き）

ある戦争、ある兵士の心境です。

銃弾を発射させたときのこの感覚がたまらない。それは次の瞬間に数百メートル先の目標物に着弾する。

スコープ越しに見える目標物は着弾後、まるで電源を急にオフにされたロボットの様に一切の行動をやめてガラクタの様に倒れてしまう。

僕には一つのこだわりがあった。それは頭を狙うということ。

戦場において、僕のようなスナイパーは特に頭を狙う必要などない。頭は的が小さい上に、じっくりと狙っている暇もない。だから体、胴体を狙って動けなくさえしてしまえばいい。

だけど僕はいつも頭を狙う様にしている。もちろん一撃で確実に殺すために。

頭に弾丸が着弾したら、まず生きているヤツはいない。特に奴らはヘルメットさえしていないのだから。それにヘルメットをかぶっていたとしても僕に支給されている最新型のライフルにかかってしまえば、それはただの帽子になる。

別に殺戮を楽しんでいる訳じゃない。

僕は目標物を確実に殺そうとしているが、それは楽しくてやっていることでは無いし、今までそんな快樂のような感情を抱いたことも無い。

でももしかしたらそれは、僕が人を殺すことに飽きてしまったから、なのかもしれない。

僕はこのスコープを覗いて、もう何年になるのだろうか。この戦争はもう、何年続いているのだろうか？ もはやもう月日の感覚なんてなくなってしまうていた。

平和だった頃、戦争の映画やなんか「誰がこの戦争を始めてしまったんだろう？」とか兵士が叫んでいるのをみたことがあるが、実際戦争を初めてみると、もうそんなことどうでもいい。誰が始め

たかなんてわからないし、そんなことがわかったところで、戦場で生き残れる訳じゃない。

戦争が始まったとき、僕にも一応戦う理由があった。信念とでも言うのだろうか？ 守るための戦いだとか何とか。

でもそんなものは、初めて劣勢の立場になって死が目の前を横切ったとき、綺麗に吹き飛んでしまった。

信念？ 今思うとそんなもの、一時の感情に過ぎなかった。自分が今どこにいるのか、そのときようやく分かったのかもしれない。もちろん戦場になんてもういたくなかった。戦争なんてやめたかった。でも戦争は続いていて、僕は戦場にいた。

逃げようと思えば逃げられたのかもしれない。戦場から回れ右して、必死で逃げればもしかしたら逃げ切れて、僕は戦争をやめられたのかもしれない。

でも僕はそれをしなかった。なぜだろうか？ 一人で逃げるのか怖かったから？ それとも、もう逃げるには、人を殺しすぎていたからか？

そのとき僕の近くで固いものが木にぶつかる音がした。

手榴弾だ。

僕は射撃姿勢から素早く体を起こし、近くの岩陰に飛び込む。それでも激しい空気の振動が体を打ち付け、一瞬意識が飛びそうになる。

僕は手に縛り付けているライフルを抱えなおすと、暗がりの林の中で周りの状況を探る。

もうこの場所は見つかってしまった。だからといってどの方向に逃げればいいのか。周囲はもう囲まれてしまっているだろう。今ので足をヤッてしまつて、次に手榴弾を投げられたらもうさけることはできない。

頼る味方なんて既にいなかった。僕の所属していた部隊はもう僕一人。

残りの弾薬はたしか3発だったか。片腕はもう吹き飛んでいた。

残った手も薬指しか動かない。

天才なんてはやし立てられて、調子に乗って撃ち続けた。気がついたらこんなとことまで来ていて、あげくの果てがこの様だ。

「もっとカッコいいと思ってたんだけどなあ」

なんだかもう、笑えてきた。

(後書き)

前書きで書くのを忘れていましたが、「笑える話」というのは登場人物の心境です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9868p/>

笑える話

2011年1月12日20時19分発行